

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年10月27日 (2011.10.27)

【公表番号】特表2010-539901(P2010-539901A)

【公表日】平成22年12月24日 (2010.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-051

【出願番号】特願2010-525831(P2010-525831)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 5/0783 (2010.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/711 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

A 6 1 K 39/12 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 5/00 2 0 2 L

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 Q 1/68 A

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/39

A 6 1 K 35/76

G 0 1 N 33/53 P

A 6 1 K 39/12

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月7日 (2011.9.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

単離した長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチド又は長鎖散在反復配列 ( L I N E )  
ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む核酸と、製薬上許容される担体とを含む免疫原性組成物。

【請求項 2】

単離 L I N E ポリペプチドが、配列番号 1 ~ 2 2 のうちの任意の 1 つと少なくとも約 7 5 % のアミノ酸配列同一性を有するアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 3】

単離 L I N E ポリペプチドが、配列番号 1 ~ 2 2 のうちの任意の 1 つに記載のアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 4】

アジュバントをさらに含む、請求項 1 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 5】

アジュバントが、水酸化アルミニウム、M F 5 9、またはモノホスホリル脂質 A を含む、請求項 4 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 6】

L I N E ポリペプチドが、配列番号 1 ~ 2 2 のうちの任意の 1 つに記載のアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 7】

核酸が組換えベクターである、請求項 6 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 8】

組換えベクターが組換えウイルスベクターである、請求項 7 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 9】

配列番号 1 ~ 2 2 のうちの 1 つに記載のアミノ酸配列と少なくとも約 7 5 % のアミノ酸配列同一性を有するアミノ酸配列を含む、合成長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチド。

【請求項 1 0】

多量体である、請求項 9 に記載の合成 L I N E ポリペプチド。

【請求項 1 1】

担体と連結している、請求項 9 に記載の合成 L I N E ポリペプチド。

【請求項 1 2】

請求項 9 に記載の合成 L I N E ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む核酸。

【請求項 1 3】

長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチド又は長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む核酸を含む、個体において、病原性ウイルスに感染したまたは感染する危険性のある宿主細胞に対する T リンパ球応答を誘導するための組成物。

【請求項 1 4】

T リンパ球応答が C D 8 + T 細胞応答または C D 4 + T 細胞応答を含む、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 5】

T リンパ球応答が粘膜 T リンパ球応答を含む、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 6】

病原性ウイルスがヒト免疫不全ウイルスである、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 7】

個体が病原性ウイルスに感染していない、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 8】

個体が病原性ウイルスに感染している、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 9】

長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチド又は長鎖散在反復配列 ( L I N E ) ポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む核酸の有効量を含む、個体におけるレトロウイルス感染を治療するための組成物。

【請求項 2 0】

有効量が、個体におけるウイルス量を少なくとも約 1 0 % 減少させるのに有効な量である

、請求項 19 に記載の組成物。

**【請求項 21】**

レトロウイルスがヒト免疫不全ウイルス（HIV）である、請求項 19 に記載の組成物。

**【請求項 22】**

ヌクレオチド類似体逆転写酵素阻害剤、ヌクレオシド類似体逆転写酵素阻害剤、非ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤、HIV プロテアーゼの阻害剤、HIV インテグラーゼの阻害剤、及び HIV の侵入または融合の阻害剤の 1 種又は 2 種以上を更に含む、請求項 19 に記載の組成物。

**【請求項 23】**

a) 白血球（WBC）を、*in vitro* で合成長鎖散在反復配列（LINE）ポリペプチドと接触させることと（WBC は、患者から、治療の開始後の第 1 の時点に得る）；  
b) LINE ポリペプチドとの接触に応答して WBC によって分泌されたサイトカインを検出することを含み、

LINE ポリペプチドとの接触に応答した対照 WBC によるサイトカイン産生のレベルと比較した、LINE ポリペプチドとの接触に応答した WBC によるサイトカイン産生の減少は、治療がレトロウイルス感染症の治療に有効であることを示し、対照 WBC は、患者から、治療開始前、または第 1 の時点よりも前の治療中の時点に得る、レトロウイルス感染症の治療に対する患者の応答を監視する方法。